

# 倉吉市・東伯郡小学校外国語活動研修会 アドバイザー派遣実施レポート

倉吉市小学校校長会・東伯郡小学校校長会

- 1 研修テーマ 次期学習指導要領改訂を見据えて
- 2 期 日 平成 28年 9月13日(火曜日)
- 3 場 所 倉吉交流プラザ 第1研修室
- 4 講 師 国立教育政策研究所 教育課程研究センター  
教育課程調査官 直山木綿子 氏

## 5 内 容

### (1) 開会

- ・あいさつ 倉吉市小学校校長会長 明德 一志

### (2) 講義 「小学校外国語教育に求められているもの」

- ・中学年外国語活動、高学年教科外国語、それぞれのイメージを持つこと
- ・高学年は1時間増える外国語の時間をどう確保するのか、学校の実態に合わせ、外国語だけではなく教育課程全体を見て考えること。
- ・担任は、児童にとって「英語を使おうとするモデル」であるべき。
- ・腹をくくって、校内外の研修をし、指導力と英語力を付けること。
- ・外国語を使って何をするか、英語を身につけた先のことを考えること。



### (3) 演習・模擬授業「中学年外国語活動、高学年教科外国語の具体の活動・指導の工夫」

- ・新補助教材"In the Autumn Forest", "Good Morning"の実際の使い方と工夫

## 6 受講者の感想

- ・教師としての自分を磨かねばならないと改めて自覚した。ことばは人と人がわかり合うために使うもの、という考えに同感である。つながる喜びや楽しさを学校で伝えていきたい。
- ・子どものアンケート結果を分析して、学習内容が考えられており、納得できることが多くあった。子どもを英語好きにすること、また、小学校教員は英語を使おうとするモデルになることなど、自分たちの役割が自覚できた。

- ・直山先生の笑顔で語りかけるところがすてきだと思いました。自分もあんな授業をしたいと強く、強くあこがれました。先生の言葉「先生が逃げたら、子どもも逃げる」を肝に銘じて英語について精進していきます。
- ・小中連携と声高に言われているものの、それをいざ実際に授業に反映させるとなると、うまくできていないのが実情だった。今回はその打開策とも言えるアイデアの一端をいただけた。中高の教員も、今後もこのような小学校外国語活動研修会に参加させていただく機会があれば有り難い。

## 7 まとめ

新学習指導要領の小学校での完全実施まであと4年弱となり、小学校の先生方はいやがおうにも英語に向き合わなければならない時が来ていることを痛感した。小学校において、担任の先生の役割は大きく、たとえ英語が苦手でも児童に「英語で話そうとする姿」を見せることで、児童にとって一番のめざすモデルとなる、ということ力を説かれた。また、教室の中であっても英語を話す必然性のある活動を仕組み、英語を使って何ができるのかを、児童にしっかり理解させる必要がある。そして、教師自身が英語の世界にどっぷりと浸り、演じることで、教室の雰囲気のがらっと変わり、子どもたちが英語を使いたくなる雰囲気作りになることも、実感できた。

新学習指導要領は、小中高生のアンケートや英語力調査等から明らかになった課題を克服すべく工夫されていることの説明があった。中学校・高校は小学校で培った英語への興味関心を活かした授業を仕組む必要がある。自分の考えや気持ちを友だちと伝え合う活動を進め、グローバル社会に対応できる人材を育てていきたい。

新学習指導要領の実施までに、小学校教諭全てが、今研修を受講するように来年度も計画していく。

